

【開催報告】

都市生態系再生 国際シンポジウム in 金沢

2025年5月22日国際生物多様性の日を記念し、国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットは都市生態系再生国際シンポジウム「金沢から考える 都市の緑と文化、人々のつながり」を開催した。世界中で都市が進化を続けるなかで、自然、文化、そしてコミュニティのつながりは、都市のアイデンティティをカタチづくり、持続可能な未来への道を拓く重要な要素である。本シンポジウムは地域住民の参画や文化的資源を生かした都市生態系の再生につ



パネルディスカッション

いて、国内外の専門家やモデル都市・パイロット都市の代表者が意見を交わした。

基調講演にはUNEPやICLEIなどの関係機関から3名が登壇し、生物多様性と人間のウェルビーイングのつながりを強化するための取組や昆明・モントリオール生物多様性枠組（GBF）の実施にむけた最新の動向が紹介された。とりわけ、日本の新たな生物多様性国家戦略における自然を基盤とした解決策（Nature-based Solutions）の事例に注目が集まった。

後半のパネルディスカッションではパリ、メキシコシティ、金沢など7都市から8名が登壇し、「文化と自然から考えるコミュニティ主導の都市再生：世界の視点から」というテーマのもと、各都市における実践や課題を共有した。パネリストら

は金沢市における用水の利活用や庭園・ホテルの保全・保護活動といった市民主体の取組に強い関心を示した。さらに、猛暑や洪水、資金確保の難しさといった都市それぞれの課題に対し、グリーン、ブルーインフラの整備とともに自然を基盤とした解決策の導入の重要性が強調された。各都市で状況は異なるが、共通してコミュニティの積極的な参画が必要であると締めくくり、ディスカッションを終了した。

国連大学サステナビリティ高等研究所
いしかわ・かなざわオペレーティング・
ユニット（UNU-IAS OUIK）

UNU-IAS OUIKは、2008年に国連大学高等研究所（当時）唯一の日本国内のフィールドユニットとして設立。地域に根ざした研究を柱として活動、その成果を持続可能な社会作りにつながる日本の地方モデルとして、国内外に発信している。



会場の様子

つな環

第46号

2025年10月発行

編集・発行：地球環境パートナーシッププラザ
http://www.geoc.jp/
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前5-53-70国連大学1F
Tel. 03-3407-8107 Fax. 03-3407-8164
開館時間：10:00～18:00（火～金曜）
10:00～17:00（土曜）
休館日：日曜・月曜・祝日・年末年始

関東地方環境パートナーシップオフィス（関東EPO）
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前5-53-67コスモス青山B1F
Tel. 03-3406-5180 Fax. 03-3406-5064
業務時間：10:00～18:00
休業日：土曜、日曜、祝日、年末年始

デザイン：安食正之（北路社）
印刷：株式会社野毛印刷社

GEOC/EPOからのお知らせ

「つな環」読者アンケートを実施します！

来年の2026年はGEOC開館30周年で、機関誌「つな環」も創刊から24年目となります。

SNSの普及やデジタル化の推進など、時代も大きく変化する中、日々「つな環」を読んでいただいている皆さまのご感想やご意見をいただきたく、読者アンケートを実施します。右のQRコードから、ぜひお声を聞かせてください（11月21日（金）締切予定）。

ご回答いただいた結果は、次の「つな環」第47号の発行にあわせて紙面およびGEOCホームページにて公開する予定です。



つな環編集部

星野 智子、尾山 優子、島田 幸子、江口 健介、鈴木 良壽、比留間 美帆、
姜 そんう、今井 麻希子（順不同）

つな環

検索

「つな環」はインターネットからもご覧いただけます。
http://www.geoc.jp/information/tsunakan